

肺がん

前回は肺がんを早期に発見するためにはCT検診が重要であることをお話しました。住民検診や職場検診の胸部X線検査で「異常なし」と言われても安心はできませんが、CT検診で「異常なし」であれば大丈夫でしょう。

病気が治るとは？

なぜ早期発見が大事かと言うと、それは早期であればあるほど治る可能性が高くなるからです。さて、この「治る」というのはどういう状態なのでしょう？

病気が治ったことを専門用語では「治癒」と言います。これは、ある病気に対して治療を行なって良くなり、その後治療の必要がなくなった状態です。例えば高血圧症で薬を飲んでいる場合、血圧が正常になっていたとしても薬を飲み続けている限り治癒したとは言いません。

肺がんを治す

肺がんの治療方法には三つあり

ます。手術、放射線療法、そして薬物療法です。薬物療法では遺伝子治療や免疫療法といった全く新しいタイプの治療方法も研究されてきました。また重粒子線治療ができる特殊な放射線治療装置も開発されています。

「治癒」を目指す場合、この中で一つだけ飛び抜けて有効な方法があります。医学が目覚ましい発展を遂げた現在でもなお、原始的ですが「病巣を手術で取り除く」ことが肺がんを「治す」ための最も優れた方法です。ただし、手術が有効なのはがん病巣を完全に取り除くことができる場合です。これは肺がんと診断された方のうち半数以下でしかありません。病期（ステージ）で言うところ、Ⅰ期、Ⅱ期とⅢA期の一部です（図1）。

肺がんの手術

以前ほどではありませんが、やはり今でも「手術以外の方法で肺がんを治してほしい」と言われることがあります。誰だって痛い思いをせずに治るのならそれが一番です。で



立川総合病院 呼吸器センター長
日本呼吸器外科学会 評議員

岸本晃司

も、もしも肺がんの手術が1センチくらいの小さな穴四つだけでできるとしたらどうですか？ 小さな傷で肺がんをきれいに取り除けるのです。あまり痛くなくて回復も早そうですね。この画期的な手術について、次回詳しくお話ししましょう。

進行度（病期）	治療方法	治療目的
0期	手術	治癒
Ⅰ期	手術	治癒
Ⅱ期	手術	治癒
ⅢA期（完全切除可能）	手術	治癒
上記以外のⅢ期	薬物療法（+放射線療法）	生存期間の延長 生活の質の改善
Ⅳ期	薬物療法（+放射線療法）	生存期間の延長 生活の質の改善

図1 肺がんにおける病期別の治療方法とその目的

進行

